


ほけんだより



平成27年9月
こでまり保育園
～第6号～

園庭の柿の実が色づき始め、日中は過ごしやすい季節になりました。朝夕は肌寒く、季節の変わり目で体調を崩す子どもたちが増えています。手洗い・うがいを行い、風邪を引かないように予防しましょう。

RSウイルス感染症

症状

4～5日の潜伏期間の後、鼻水、咳、発熱などのかぜに似た症状が現れます。通常は1週間前後で回復しますが、なかには肺炎や気管支炎を発症する子どももいます。特に心肺の基礎疾患がある子は重症化しやすいので、注意が必要です。また、新生児、低出生体重児、生後6ヵ月未満の乳児も重症化しやすいと言われています。手洗い・うがい（乳児は外から帰ったら水を飲ませる）をしっかり行い予防しましょう。

終生免疫ではなく、2歳までにほぼ100%感染すると言われているため、毎年かかる子どもも多いようです。発症の中心は0歳児と1歳児であり、2歳以上児や大人が感染しても風邪のような軽症で、RSウイルスと気づかずに乳児にうつしてしまうことがあります。感染経路は飛沫感染や接触感染であり、ウイルス排泄期間は、7～21日と長く広がりやすいが、特効薬はなく、対症療法で対処します。



症状が軽い場合は、かぜを引いた時と同様、水分補給、睡眠、栄養、保温に注意し、安静にして経過を見ます。脱水気味になると、たんが粘稠になって吐き出すのが困難になるので、水分をこまめに与えましょう。



溶連菌感染症



2～5日の潜伏期間の後、喉の痛みや、扁桃腺が腫れる症状から始まり、頭痛、体のだるさなど、かぜの症状と同時に38～39℃の高熱が出ます。発熱から2～3日経つと、首や胸、手首、足首に粟粒状の発疹が現れて強いかゆみを伴い、やがて全身に広がります。同時に、舌にイチゴ状の小さくて赤いブツブツとした発疹が現れます。

熱がある時は、水分補給を十分に行いましょう。また、喉の痛みがあるため、熱い物や刺激物、柑橘系の果物は避けましょう。回復後、まれに急性腎炎やリウマチ熱にかかることがあります。症状が消えても、医師の指示があるまでは、薬の服用をやめないようにしましょう。



マイコプラズマ肺炎

最初のかぜと似た症状が現れ、1～2日遅れて咳が出始め、1ヵ月くらいしつこく続くのが特徴です。また、熱は夕方から上がり、朝方には下がるのも特徴です。

潜伏期間（14日～21日）が長く、痰や唾液、咳で感染が広がる飛沫感染です。抗生剤の内服で治りますが、家族内で感染しやすいため、十分な睡眠と栄養、うがい・手洗いが予防策です。

マイコプラズマ肺炎は、学校保健安全法の感染症の第三種「その他の感染症」に含まれますが、感染した場合の登園時期は、法令で決まっていないので、小児科医の診察後、相談して登園しましょう。